

瑞医

世界に羽ばたくMEDIPOINT

2007 VOL.3

contents

極 研究&教育
Current topics in research and education

人 時の人
People in the news

技 最新医療の紹介
Latest developments on the medical front

発表! 本誌愛称!

投票へは多数のご参加ありがとうございました。結果を受け、どんな愛称がより、みなさまに愛され覚えていただけるだろうかと、委員一同考えました。その結果、ご覧のように「瑞医～世界に羽ばたくMEDIPOINT(メディポート)～」に決定しました! 「瑞医」もサブタイトルの「MEDIPOINT」もオリジナルの言葉です。それぞれの言葉にこめられた意味は右に挙げたとおりです。加えて、この春、同窓会・同門会が一つになり「瑞友会」となったことに併せ、「瑞友会」とともに歩む広報誌であるようにとの願いをもこめました。

本誌がみなさまの心のよりどころになるよう、ホットで元気な名市大の最新ニュースをお届けしてまいります。どうぞ末長く可愛がってくださいね!

“瑞医”の由来 Meaning of this word

本誌タイトルである瑞医(ずい)の意味は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大。「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。サブタイトルであるMEDIPOINTは、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出航し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。



新外来診療棟 開院

かねてから準備が進められていた新外来診療棟が、5月7日に開院しました。

新外来診療棟では、1階に外来化学療法室を新設したほか、診察室を個室化するなど、患者さんのプライバシーに配慮した設計となっています。また、吹き抜けのアトリウムやコーヒーショップを設けるなど、患者さんにくつろいで過ごしていただけるように工夫されています。特に、光触媒を施した樹木と自然光あふれるアトリウムは、従来の暗い病院のイメージを払拭するものであり、患者さんの評判も上々です。今後も、皆様に高度で安心できる医療を提供できるよう、環境整備に努めてまいります。



▲新外来棟アトリウム

※名古屋市立大学病院フルオープンにあたり、同窓会・同門会の皆様から多くのご支援を賜り、あらためて御礼申し上げます。お寄せいただきましたご寄附につきましては、人材の育成等、「名市大」の益々の発展のために活用させていただきます。

関連病院 今年度より本学を定年退官されたお二人の先生が関連病院へ!

旭労災病院—勝屋 弘忠氏が病院長に!

[前 危機管理医学 教授]

Q 病院の特色、新たな取組みは?

労災病院も平成16年度から法人化され全国で再編が進んでいますが、旭労災は中部労災とは医療圏が別であることやアスベスト疾患のブロックセンターであることから存続することが決まっております。機構本部から本院の建て替えのスケジュールも示されております。

当院は250床とコンパクトな病院で、呼吸器の宇佐美副院長をはじめとして内科系のほとんどおよび小児科は名市大出身または関連医師です。特に4月から循環器科は谷智満部長以下3名の名市大出身医師が赴任し、早速活発な活動をしております。2年前から救急にも力を入れており、次第に近隣の救急隊の信頼も得つつあ

ります。内科のM6選択制BSLも受け入れており、臨床研修医にも結構人気があり今年度も4名が研修中で、その様子は本院HP上でもご覧いただけます。

Q 新しい病院、役職に就かれ今後の抱負は? また名市大へ一言。

労災病院として労働者の健康維持という本来の役目を果たしつつ、救急をはじめとして地域医療にもより力を入れる所存です。また診療科間の垣根が低いコンパクトな病院の良さを武器として、今後は卒前・卒後の研修を通じて名市大との連携をより強固なものとしていきたいと考えておりますので、今後ともご指導よろしくをお願いいたします。



勝屋 弘忠 病院長
前 危機管理医学 教授

刈谷豊田総合病院—真辺 忠夫氏が常任顧問に就任!

[前 臨床病態外科学 教授]

Q 病院の特色、新たな取組みは?

医療法人豊田会・刈谷豊田総合病院は、刈谷市にある豊田自動織機、アイシン精機など豊田グループ7社と刈谷市によって昭和37年に創立された病院です。刈谷豊田総合病院は607床で急性期医療を担い、他に療養型医療の東分院230床、介護老人保健施設のハピリースーツ木140床があり、病床総数は977床です。刈谷豊田総合病院は、医師数162名を擁し、地域の中核病院として、また、先端医療の拠点として高い評価を受けています。研修システムも充実しており、名市大、名大を中心に30名の臨床研修医が研修に勤しんでいます。

Q 新しい病院、役職に就かれ今後の抱負は? また名市大へ一言。

名古屋市立大学に13年余、今までは大学から病院を見てきましたが、このたび定年退職を機に医療法人豊田会の刈谷豊田総合病院に常任顧問として、第一線の病院で臨床のレベルアップを目指し、アドバイザーとして関連大学とのパイプ役を務めようと考えています。名市大には、名市大の特色、よさをもっとアピールしてほしいと願っています。



真辺 忠夫 常任顧問
前 臨床病態外科学 教授

研究者紹介



橋谷 光 (はしたに ひかる) 細胞機能制御学 (生理学第一) 講師

専門: 平滑筋生理学 (テーマ: 平滑筋の自発活動および神経・間質細胞による機能制御機構の研究)

尿路・男性生殖器の平滑筋生理機能と病態時変化を、組織標本を用い電気生理学と細胞内カルシウム濃度のイメージングから研究。分子や細胞の精緻な機能的集合体である組織での複雑な現象を、生体内の「動き」として体感できる事が魅力、と語る。

近年の論文: J Physiol. 576:707-714 (2006), J Physiol. 569:723-35 (2005)

趣味: 筋トレ (仕事は平滑筋、趣味は骨格筋、焼き肉は両方)

間瀬 光人 (ませ みつひと) 神経機能回復学 (脳神経外科) 准教授

専門: 脳神経外科, 特に脳血管内治療と内視鏡下経鼻下垂体手術

くも膜下出血後に増加する髄液中プロスタグランジンD合成酵素が、脳血管攣縮原因物質を捕捉し髄液腔外へ輸送することを発見。脳血管攣縮の治療を目指しノックアウトマウスやサルを用い研究を展開。MRIによる髄液循環動態から診断困難な正常圧水頭症の非侵襲的診断法を開発中。

近年の論文: J Acta Neurochir (Wien) Suppl 95: 303-306 (2005), International Congress Series 1259: 365-369 (2004), Neurosci Res 47: 455-459 (2003)

Mitsuhito Mase



新分野発足! 新任教授に聞きました

免疫学—岡田則子教授

Q 新分野をご紹介下さい

免疫学は急速な進歩を遂げている学問分野であり、多くのノーベル医学生理学賞が授与されている重要分野です。免疫機構の解明に伴い原因不明とされていた病態が免疫異常疾患であることが検証されつつあり、治療への道が開かれています。



Q 今後の抱負をお願いします

多岐にわたる臨床疾患を解決するにあたり、その基礎と成る免疫学分野が新設されました。本分野の教育、研究における役割を重く受け止めて、名市大医学部の将来に向けて尽力致す所存で御座います。

再生医学—澤本和延教授

Q 新分野をご紹介下さい

再生医学分野(英語名称: Department of Developmental and Regenerative Biology)では、中枢神経系を主な対象として発生・再生のメカニズム解明と再生医療への応用を目指した研究・教育を行っています。



Q 今後の抱負をお願いします

名古屋市大の皆様と一緒に、重要で面白い研究を行いたいと考えています。お気軽に分子医学研究所の3階(再生医学部門)に遊びに来て下さい。

卒業生から贈り物—新たな伝統の1ページ

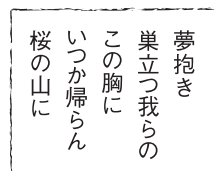
3月23日、名市大での6年間を胸に84名の卒業生が名市大を巣立っていきましました。今まさに、医師としての第一歩を踏み出している彼らから、母校へ素敵な贈り物をいただきました。

「最初は、桜山だけに桜の苗木でも贈ろうかと思っていたんです。でも、これが僕らの代だけで終わらず、よい伝統として後輩たちが続けてくれたら、何年か後には大きなものになると思います、今回は寄附という形をとらせていただきました。」と語る卒業生代表。総額50万円余を母校に残してくれました。

最後に、大きな贈り物を残してくれた卒業生。きっと今は、学生時代とは比べ物にならないハードな毎日を送っていると思いますが、恩師に贈った湯呑のメッセージにあるように、再びこの名市大に戻り、医師として、研究者として活躍してくれる日が待ち遠しいです。



◀卒業生からお世話になった先生方へのプレゼント。「愛」湯呑



A 中央診療棟屋上ヘリポートを見学する新入生保護者

B C 新入生歓迎会で、よく食べ、よくしゃべりました。

春—新入生をむかえました

今年も、喜びに顔を輝かせた80名の新入生を迎えました。4月5日の入学式後には、川澄キャンパスにて、新入生の保護者を対象に、大学説明会・施設見学会を実施し、88名の参加をいただきました。カリキュラム・学生生活について説明をうけたのち、新外来棟や中央診療棟ヘリポート、図書館を見学していただきました。参加者からは「(施設を見学したので)具体的に学生生活を想像することができ嬉しかった。」等の感想をいただきました。また、4月10日には医学部の新入生歓迎会が行われ、教職員・先輩学生あわせて約300名が集まり、まだ緊張の残る新入生も積極的に教員や先輩と交流を深めていました。

この日の気持ちを忘れず、充実した6年間をおくるよう期待しています。

市大病院 新臨床研修制度

Q1 新臨床研修制度の現状は?

平成16年から卒業後2年間のスーパーローテート研修の修了が臨床医の資格要件になり、マッチング制度によって医学部6年の秋には卒業研修先が全国一斉に決定されるようになりました。新制度が目指すプライマリケアにおける総合診療能力の向上は、医療制度問題や医療の国際化の観点からも必須です。一方、新制度後、医師の地域別、診療科別偏在、指導医の過剰負担、短期ローテートに伴う指導医と研修医のストレス、研修の実効性の疑問などの社会的問題が起り、制度の見直しが始まっています。

Q2 市大病院の臨床研修の特徴は?

内科系総合診療をコアプログラムとするコア診療研修を始めました。コア診療ユニットは臨床研修のヘッドクォーター機能を担い、数名の専任指導医が研修医と同じ勤務体制で診療と研修指導に専念しています。臨床研修の理想のスタイルで、全国をリードする先進的な研修体制です。医師のキャリアパスには、様々な医療現場や研修環境における経験と様々な人との出会いが必須です。平成20年度から地域一般病院とのたすきがけによる連携研修を格段に充実しました。沢山の一般病院から本趣旨に賛同を頂き、地域一体となりすぐれた医師を育てるプログラムができました。



コア診療ユニット
(コア診療ローテート中の研修医、学生と)

- 最前列: 早野順一郎(総合教育・臨床研修センター長)、(左から) 森本高太郎(専任指導医)、兼松孝好(コア診療ユニット主任)
- 2列目: 安藤健二(専任指導医)、有賀俊二(専任指導医)、川島将司(専任指導医)

(URL <http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/cgmerd.dir/index.htm>)

名古屋市立大学医学部附属病院は 働く女性に優しい職場をめざします



病院で働く女性医師・看護師の職場定着・復帰を支援する取り組みをはじめます。詳しくは次号特集を乞うご期待!

名古屋市立大学医学部附属病院では、女性医師・看護師の職場定着・復帰を支援するため、定着・復帰支援センターの設置、定着・復帰支援のための各種プログラムの整備などに取り組みはじめています。名市大病院だけでなく地域関連病院とともに連携した、革新的な定着・復帰支援プログラムをめざします。一名市大病院だからできること—私たちの取り組みに注目してください。

ひとつこと☆メッセージ募集!

本誌では、皆様からの一言メッセージを募集します!ご無沙汰している同級生に、恩師に「ワイワイ楽しいお便りお待ちしております。ほっと和む「名市大人のつぶやきコーナー」をみなさんと作りたいと思います。

例えばこんな一言を、

- ✿ 研究者紹介に載った同期・先輩へ。「おまえも、がんばってるみたいやん。」
 - ✿ ごぶさたしている同窓生への近況を。「最近、腹が出てきました。」
 - ✿ 新米医師のつぶやき、女性医師必見!ウチの家事両立法!「ここが手抜きポイント!」
- などなど、必要事項を記入の上、葉書かe-mailで下記までお送りください。(注:次回掲載は10月です)
- 1.一言メッセージ(30字以内) 2.卒業年度 3.お名前(ふりがな) *匿名希望またはペンネームでの掲載をご希望の場合はその旨をお書きください。*4.住所 5.電話番号またはmailアドレス

《受付》〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 E-mail:igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp
名古屋市立大学医学部広報誌「一言メッセージ」係宛

お送りいただいた個人情報については、お便りの採用に関する応募者への問い合わせ、確認以外の目的で使用いたしません

広報誌:瑞医(ずい)

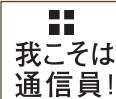
発行:名古屋市立大学医学研究科・医学部

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

TEL (052) 853-8077 FAX (052) 842-0863

URL <http://www.nagoya-cu.ac.jp>

※次号の発行は平成19年10月下旬発行予定です。[年3回 2月・6月・10月]



広報誌「瑞医」へ最新の話題をお届けして下さるサポーター大募集!
「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。我こそは、という方は、igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp または医学部事務室 佐々木まで